

BUSINESS PLAN 2026.

マル動物病院 事業計画書

01 私たちについて

WHO WE ARE

マル動物病院付属の国際獣医金糸&テロメア研究所は、20年以上にわたり、生命エネルギー波技術を獣医臨床の現場に直接適用してきました。診療と研究を同じ場所で行ってきたため、文献だけではなく、この技術が実際の動物患者にどのように作用するかについての現場記録を保有しています。

区分	内容
機関名	マル動物病院付属 国際獣医金糸&テロメア研究所
代表者	孫ファソプ院長(DVM、総括院長)
所在地	大韓民国 ソウル特別市 松坡区 楊山路4キル13 ユートパークビル101号
事業者登録番号	142-17-00919
現況	大韓民国で正式に登録された獣医医療機関・専門科学技術サービス業
診療分野	神経断裂および切断修復 / ウイルス性疾患 / 各種がん / 慢性腎不全 / 心筋梗塞 / 自己免疫性疾患 / テロメア延長

孫ファソプ院長(DVM)

数十年にわたり、獣医臨床と難治性疾患の治療を指揮してきた獣医師(DVM)専門医

生命エネルギー治療機器(「情報エネルギー」・「生命エネルギー」)を20年以上にわたり独自に研究・開発
基盤特許3件の発明者・特許権者

腰部神経損傷の動物患者が11日目に歩行を回復した事例、安楽死を勧告された溶血性貧血の動物患者が回復した事例など、直接指揮した症例記録を保有

現在の取り組み

技術はすでに確保されており、診断キットが完成品として発売される時点で、海外販売を推進する計画です。

国内のコンパニオンアニマル市場は現在1兆2,488億ウォン、世界のコンパニオンアニマル市場は約15兆ウォンです。

02 エグゼクティブサマリー

EXECUTIVE SUMMARY

THE ASK — 韓国ですでに臨床に適用されている量子治療システムとテロメア延長療法を、そのまま海外のコンパニオンアニマル市場に定着させることを目指します。これは開発すべき技術ではなく、マル動物病院がすでに運用している技術であり、基盤特許3件と臨床記録に裏付けられています。教育と検査分析も韓国で行います。

2.1 提案の概要

区分	提案内容
中核技術	テロメア延長 — 細胞の老化マーカーを逆転させる生命エネルギー波技術
3つの適応軸	①テロメア延長 ②難治性・不治の疾患 ③神経損傷・切断の修復および麻痺治療
対象	コンパニオンアニマル(犬・猫など)。2段階に区分
優先市場	日本・サウジアラビア・ベトナムなど
販売商品	①量子治療システム(チャンバー) ②動物テロメア診断システム
市場参入の構造	K-Link株式会社との合併 + 海外現地支社ネットワーク

2.2 中核ロジック

まず動物から始めます。ヒトの医療と比べて、動物用医療機器は承認期間が短く、費用が低く、臨床観察のサイクルも短くなります。同じ技術で最も早く収益を生み出せる構造です。

また、日本・サウジアラビア・米国・中国・インド・東南アジアなどの支社は支社募集によって容易に拡大できるため、効果が実際に現れる構造です。

テロメア延長技術も中心です。複数の技術を同時に前面に出すと、デューデリジェンスですべてが不安定になります。測定可能な単一の指標(T/S比)を持つテロメア延長技術を最前面に置き、難治性・不治の疾患ケアと神経治療はその延長線上に位置づけます。

そして治療は、量子力学の生命エネルギー波を通じて行います。生命体は化学反応だけで動くわけではありません。細胞膜のナトリウム・カリウム(Na⁺/K⁺)イオンチャネルが作り出す電位差は生体電気信号であり、脳波(EEG)・心電図(ECG)・筋電図(EMG)で読み取られるものがまさにその信号です。この技術はその地点に介入します。生命エネルギー発生装置は物理的な波動エネルギーを生体に伝え、細胞が自ら行う修復・再生の過程を活性化します。薬物を注入して反応を引き起こす技術ではなく、すでに休眠状態になっている機能を目覚めさせる技術です(ジャンク遺伝子 / JUNK Gene)。

第二に：核心は、血栓により毛細血管末端で失われたグロムス [Glomus] を回復するSolutionです。

03 事業の背景

BACKGROUND

3.1 なぜ動物が先なのか

比較項目	ヒトの医療	獣医療(コンパニオンアニマル)
許認可機関	食品医薬品安全処(MFDS)・ 先端再生医療の審査	農林畜産検疫本部(海外:MAFFなど)
臨床への参入	IRB承認・対照臨床試験が必須	獣医臨床への適用経路が比較的単純
観察サイクル	数年単位の追跡観察が必要	[犬・猫]などは寿命に比べて観察サイクルが短い 拠点支社・ 診断キットを中心に小さく始められる 20年以上の獣医臨床現場の記録

3.2 現時点でこの事業を行うタイミング

構造 — 拠点支社の診断キット・ソリューション治療は、すぐに実行できる領域です。

先行者効果 —

技術と実現を組み合わせたこの療法では、参入が早いほど、選べる相手先もより良いものになります。

■ 海外事業を構成する3つの軸

本文の拠点支社・診断キット・ソリューションの構成をつなげたものです。



本文の要点ビジュアル

04 中核技術: テロメア延長

CORE TECHNOLOGY

染色体の末端にあるテロメアは細胞分裂のたびに短くなり、一定の長さを下回ると細胞はそれ以上分裂できなくなり、老化死に至ります。この技術は、細胞の非発現遺伝子領域を生命エネルギー波で刺激し、テロメアの短縮を遅らせ、テロメアの長さを維持・延長することを目指します。

4.1 作用メカニズム

フェーズ	内容
1. エネルギー印加	「情報エネルギー」・「生命エネルギー」機器(チャンバー)で、特殊な波動を生体に伝達
2. 遺伝子領域の刺激	全DNAの92%~97%を占める非発現遺伝子(Junk / Sleeper Gene)領域を刺激
3. テロメアの反応	細胞分裂時の染色体末端の短縮の遅延と、長さの維持・延長を誘導
4. 結果指標	qPCR kb比で測定される生物学的年齢指標の改善

4.2 測定と評価

PetAge360の測定は4つの段階で行います。①非侵襲的採取 — 滅菌スワブで口腔上皮細胞・唾液を採取 → ②DNA精製 — 高純度で抽出(ラボ日数1日) → ③qPCR測定 — テロメアkb比の算出 → ④等級判定 — 4段階・6段階のビジュアルレポート。

採取は麻酔や採血なしに口腔スワブで行うため、動物患者にストレスがなく、同じ個体を6か月ごとに再測定して延長効果を数値で追跡できます。この反復測定は、再来院による収益であると同時に臨床データでもあります。

■ 検査からレポートまで

本文4.2節の診断プロセスを順に並べたものです。



本文の要点ビジュアル

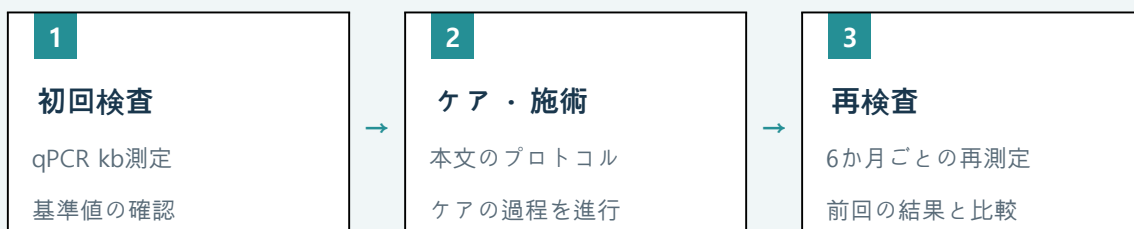
4.3 既存の治療との違い — New

区分	既存の獣医治療	本技術
アプローチ	症状が現れてから薬物・手術で対応	細胞レベルで回復機能を刺激
侵襲性	全身麻酔・切開・金属固定を伴うことが多い	非外科的・非侵襲的な施術
高齢の動物患者	麻酔のリスクにより施術自体が難しいケースがある	麻酔が不要なため、高齢動物にも適用可能
効果の確認	症状が改善したかどうかで判断	qPCR kb比で数値確認
再来院	症状が再発したときにのみ来院	6か月ごとの定期再測定

違いの核心は、測定が可能であることです。ほとんどのアンチエイジング・代替療法は、飼い主の主観的な体感でしか効果を確認できません。本技術は、施術の前後に同じ方法で測定数値を出す点が異なります。これは飼い主への説明の際にも、当局への資料提出の際にも、最も強力な点です。

■ 測定とケアがつながるプロセス

本文に提示した、検査と6か月ごとの再測定の構造です。



※ 再測定の結果を、次の段階のケアに連動させる

本文の要点ビジュアル

05 3つの主要適応軸

THREE INDICATIONS

3つの軸は、1つの技術から枝分かれしたものです。①が基本プロトコルであり、②と③は部位・用量・併用薬が異なる変形です。

軸	適応症	受け入れ基準	適用方式
① テロメア	老化・健康寿命の管理	qPCR kb比による判定	特殊エネルギー波ケア + 6か月ごとの再測定
② 難治性・ 不治	各種がん(腫瘍)	腫瘍の確定診断時	非外科的光融合療法(an celltazin + 662nmレーザー)
	慢性腎臓病	クレアチニン2.0以上 / BUN 60以上	微小循環の回復ケア
	心筋梗塞	Pro BNP 1,500以上	グロムス・ AVAの再活性化
	自己免疫疾患(約30種)	臨床で確認された時	免疫チャンバーケア + エネルギー波
	ウイルス性疾患	感染確定時	特許組成に基づく抗ウ イルスケア
③ 神経	神経断裂・ 切断、下半身麻痺	外傷・麻痺の確定時	エネルギー波 + グロムスによるバイパ ス修復
	椎間板関連の神経麻痺・ 狭窄	画像診断での確定時	同一プロトコル、部位 別に設計した照射

3つの軸をこのように販売する理由

①は入口を開く商品です。病気でないコンパニオンアニマルも対象になります。1回の診断から始め、6か月ごとに再来院させます。現地の病院にとっては、新規患者を受け入れる最も簡単な方法です。

②③は単価が高い領域です。既存の治療の限界に達した動物患者が訪れる領域のため、飼い主の支払い意欲が異なります。ただし、予後は個体ごとに差があるため、ノウハウを支社に移転する際は、まずプロトコルと受け入れ基準を揃える必要があります。

受け入れ基準は数値で公開します。クレアチニン2.0、BUN 60、Pro BNP 1,500 —

このように書いておけば、現地の獣医師が紹介の時期を自分で判断できます。説明時間が短縮され、紹介も正確になります。

06 保有資産と臨床的根拠

ASSETS & EVIDENCE

6.1 基盤知的財産

特許は現在、国内登録のみを保有しています。参入国での出願は、支社契約と併せて進める事項です。

特許番号	名称	出願 / 登録	市場参入における意味
第10-235011 8号	エネルギー発生装置を用いた肉の熟成方法	出願 2021.05.03 / 登録 2022.01.06	エネルギー印加方式の 権利根拠
第10-160098 3号	ミツバチのサックブルード 病の予防および治療剤	出願 2014.10.15 / 登録 2016.03.02	生物学的な抗ウイルス組 成物。動物用医薬品の 承認の裏付け資料
第10-165679 1号	抗ウイルス活性を有する飼 料添加物組成物	登録	飼料添加物・医 薬部外品の経路。通関 障壁が最も低い参入品 目

6.2 臨床観察記録

以下は、マル動物病院が臨床記録および映像として保有している症例です。診療の過程で残った観察記録であり、対照臨床試験ではありません。支社との相談の際には、診療記録の原本と映像を併せて提示します。

区分	期間	記録内容
交通事故後の歩 行回復	2012.05.24 ~ 08.04	猫。事故直後と回復後のX線写真を保 有
神経損傷の回復	2015.09.03 ~ 09.14	腰部神経損傷の動物患者。11日目に歩 行が回復
CKDの回復	2023.08.03 ~ 12.16	患畜のBUN・ Creatinine改善。米国ニューヨーク ANTECH検査票を保有

6.3 症例の詳細

次の3症例は、前後の数値と画像の両方が残っているため、支社への説明資料としてすぐに活用できます。

A. 交通事故の猫 — 2012.05.24 → 08.04

交通事故の後に来院した猫です。事故直後と約10週間後のX線写真の両方を保有しているため、スタッフが相談時に、口頭の説明なしで見せられる最も明確な資料です。臨床指標は、診療記録に残っているとおり引用しています。

B. 神経損傷の動物患者 — 2015.09.03 → 09.14

腰部神経損傷で歩行が困難な状態から始まり、11日目に歩行を回復した記録です。期間が短いため、飼い主や現地の獣医師からの質問がこの症例に集中します。そのため、付録として診療記録のコピーを併せて提示します。

C. CKDの改善 — 2023.08.03 → 10.16

腎臓の指標が悪かった動物患者が改善した記録で、3症例のうち唯一、国内の2つの大学動物病院(建国大学、ソウル大学)と海外機関(米国ANTECH)の検査レポートが残っています。現地の獣医師に提示した際に、最も反論しにくい資料です。

■ 文書に記録された3症例の観察日程

日付と記録の種類を整理した図であり、治療効果の数値グラフではありません。

交通事故の猫 2012.05.24 ●————● 2012.08.04 前後のX線写真資料

神経損傷の動物患者 2015.09.03 ●————● 2015.09.14 診療記録・歩行記録

CKDの症例 2023.08.03 ●————● 2023.10.16 検査機関の記録

本文の要点ビジュアル

07 ターゲット市場

TARGET MARKETS

7.1 この4か所を見る基準

市場を選ぶ基準は3つです。

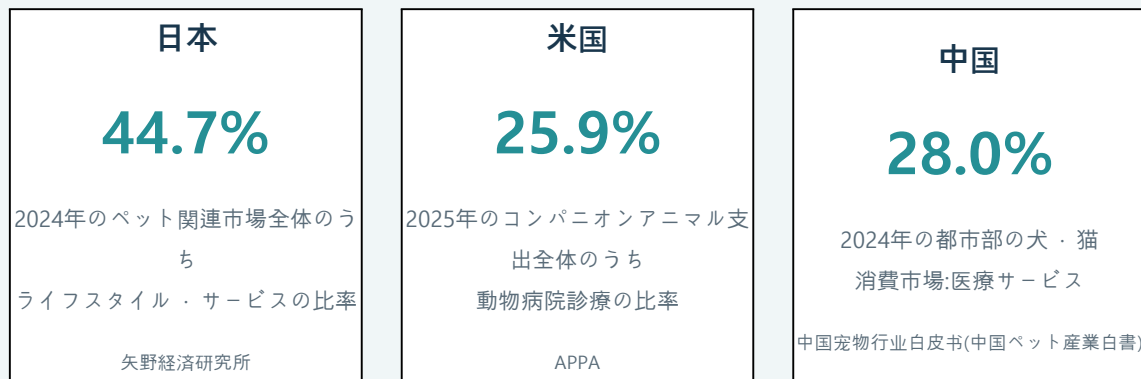
コンパニオンアニマルへの支出が大きいこと — 治療よりも、予防的な診断・健康管理にお金を使う市場であること。テロメア診断は、病気でない動物でも受ける品目です。

動物用機器と診断が参入するための手続きが明確であること — 事前に読み取れるよう、手続きが明確でなければなりません。手続きのない市場は、かえって時間がかかります。

韓国への検体の航空輸送に無理がないこと — 生体検体の輸出入と納期は、診断事業の生命線です。

■ 市場検討表に示した支出比率

市場ごとに母数と項目が異なるため、市場規模を直接比較するものではありません。



出典:本文7.2節の市場別検討表の数値と出典表記

本文の要点ビジュアル

7.2 市場別検討表

市場	コンパニオアニマル市場の根拠	診断・機器の手続き	注目する理由
日本	2024年度のペット関連市場全体は1兆9,108億円(前年比+2.6%)。そのうち動物病院・トリミング・保険などの「ライフスタイル・サービス」:8,542億円(44.7%)・2025年度の見通しは1兆9,257億円(矢野経済研究所)	動物用医療機器は、農林水産省動物医薬品検査所に製造販売承認の申請が必要です。申請窓口と様式は公開されています	市場が大きく、サービスの比率が半分近くを占めます。診断・健康管理から参入できる余地があります
サウジアラビア	2025年のコンパニオアニマル市場は約28億ドル・飼育されているコンパニオアニマルは約240万頭(※調査機関により22億~35億ドルの幅があり、ここでは中間値を記載)	動物用製品は、SFDAの登録と、安全性・品質・有効性の審査を経て初めて販売できます	公的な支出能力が大きい
東南アジア(中国を含む)	中国の都市部の犬・猫の消費市場は3,002億元(2024年、+75%)、そのうち医療サービスが28.0%(中国宠物行业白皮书)	以下を想定しています。飼料添加物・医薬品は「輸入動物用医薬品」に該当し、農業農村部の輸入動物用医薬品登録証と通関書類が必要で、申請は中国国内の代理人を通じて行う必要があります。機器は動物用医薬品の登録対象ではないため、電気・医療機器に関する一般的な輸入手続きに従う見込みです。	動物の頭数が多いため、症例数でスケールを築ける

08 市場参入戦略

MARKET ENTRY

8.1 2つの販売商品

海外でまず構成するのは、この2つです。

①量子治療システム(機器) — 生命エネルギー波でテロメア延長および難治性・不治の疾患・神経ケアを行う治療機器です。現地の動物病院に設置することで施術を可能にする、中核の販売品目です。

②動物の事前診断サービス —

PetAge360に基づく非侵襲的な口腔採取診断です。機器の導入前でも単独で販売でき、施術対象者を選別する窓口の役割を果たします。

この2つはセットです。診断で対象者を見つけ、機器で治療します。重要なのは、この2つを別々に販売できる点です。診断を先に始められるため、機器の設置を待たずに参入できます。

順位	品目	役割	販売方法
1	量子治療システム チャンバー(機器)	テロメア延長・難治性・ 神経ケアの施術を行う手 段	現地病院への設置 — 販売ま たはリース + 施術ロイヤリティ
2	動物の事前診断(PetAge360)	生物学的年齢・ リスク判定。施術対象者 の選別	検体採取 → 韓国での分析 → レポート返送(1件ごとに 課金)
付随	光感作剤(anceltazin)	腫瘍ケア用の金糸と薬剤 (治療投与量 0.8mg/kg)	機器チャンバー・ 施術とセットで供給

※

診断キットはすでに完成品として生産されています。採取チューブ、梱包、使用説明書がすべて整っているため、現地ですぐに供給でき、販売品目のなかで最も早く効果を示し、収益を生み出せます。

8.2 現地側が許認可を担当する構造

現地の許認可手続きは、現地のMAH(販売承認取得者)が直接実施する主体となって進めます。本院は、技術図面、毒性試験資料(LD-50 = 194mg/kg)、臨床記録などの裏付け資料の提供にとどまります。

手続きは国ごとに異なります。日本は製造販売承認の申請が必要ですが、現地で購入して使用することは可能です。米国には動物用医療機器の市販前承認手続きがなく、サウジアラビアはSFDAの審査を経ます。

8.3 検体循環システム

診断サービスは4つの段階で回ります。

フェーズ	業務を行う場所
段階1	海外現地 — 現地の動物病院で口腔スワブによる非侵襲的採取
段階2	韓国への輸送 — 検体の国際航空便での輸送 → 検査室での受領
段階3	韓国での分析 - qPCR測定 → テロメアkb算出
段階4	海外現地 — 検査レポートの送信 — 等級・生物学的年齢

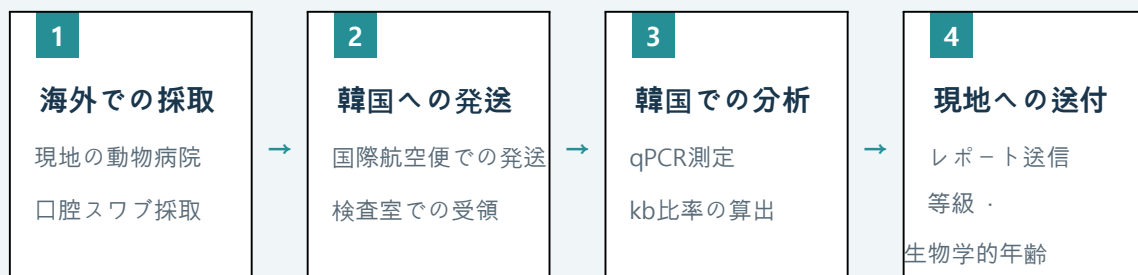
診断分析は、韓国の本院の検査室で行います。海外には分析施設を設けないため、測定品質も一か所で管理されます。現地では、採取キットの提供とレポートの解釈を行うだけで済みます。

この構造は82と噛み合っています。許認可と販売は支社が担当し、判定の基準は韓国に残ります。機器は海外へ渡りますが、この体制は段階2に依存します。検体の検査結果や往復の所要時間といった条件が、この事業のスピードを決めます。

検体量が多い場合は、現地の「検査支社」の検討も考えられます。

■ 海外での採取・韓国での分析・現地への結果の送付

海外の病院と韓国の分析検査室をつなぐ、検体循環システムです。



検体は韓国へ移動し、検査結果は海外の現地に戻ります。

本文の要点ビジュアル

09 デール構造

DEAL STRUCTURE

9.1 K-Link株式会社の役割

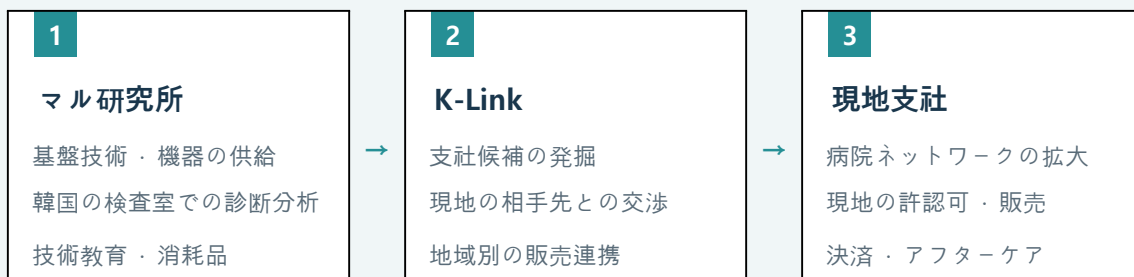
区分	マル テロメア研究所	K-Link株式会社
中核の役割	基盤技術・機器・金糸・診断分析 ・教育の供給	全地域の販売の統括・ 現地の相手先との交渉と協力
詳細業務	・治療システム(機器)の供給 ・ PetAge360の診断分析(韓国の検査室) ・ソリューションの供給 ・韓国の本院での技術教育	・日本・サウジアラビア・米国・ 中国・インド・東南アジアなど ・地域別の支社候補の発掘と交渉 ・現地の関係者との連結

9.2 支社のテリトリー権

項目	条件
権利の単位	テリトリー単位の権利 — 1つの地域支社を設けます。ここでの「地域」は、国全体を指す場合もあれば、その下位の区域を指す場合もあります。範囲は市場ごとの交渉で定めます
支社の役割	地域内の病院ネットワークの拡大、現地の許認可の取得(MAHとして)、販売および決済後の管理
本院の役割	治療システムの供給、診断分析(韓国の検査室)、金糸・ 消耗品の供給、技術教育

■ 海外運営における機関別の役割の連携

供給・分析・教育と、現地での販売・運営の役割を分けています。



テリトリー単位の権利の範囲と条件は、市場ごとの交渉で定めます。

本文の要点ビジュアル

9.3 支社が得るもの

得られるもの	内容
地域の独占権	その地域でこの技術を扱う場所は1か所のみです。同じ地域に2つ目の支社は置きません。※ サブ支社を募集する権限を付与 ★ 協議した条件に従う
2つの収益の流れ	機器の設置時に1回、その後は検査1件ごとの診断料と消耗品の再購入で継続的に — 診断は6か月ごとに戻ってきます
病気でない動物も含む	テロメア診断は、病気のときだけ受ける検査ではありません。既存の病院の顧客全体が対象になります
数値として残る結果	施術前後のkb値が残ります。飼い主には、主観的な体感ではなく数値で説明できます

逆に、支社が負担するのは現地の許認可と販売です。8.2で述べたとおり、販売承認取得者は現地側です。その負担は、その地域の権利を持つことの対価です。

9.4 韓国中心の教育方式

本院のスタッフが海外に出向いて現地で教育を行うのではなく、支社と現地の獣医師が韓国に来て、本院で教育を受けて帰る方式です。

実機と検査室がある場所で、実習が可能です。

ただし、現地に専用の教育スペースを設ければ、複数の地域の獣医師がそのスペースで教育を受けることができます。

4つの主要教育カリキュラムは、①テロメア延長プロトコル ②微小循環の回復手技
③光融合施術と金糸(ゴールドフィラメント)の留置・運用 ④PetAge360レポートの解釈です。

教育を韓国で行うことは、品質を揃える仕組みであると同時に、技術を維持するための事柄でもあります。83の検体循環と同じ原理です —

機器は外に出ますが、教える場所と判定する場所は韓国に残ります。通訳は、現地の同行人員を前提とします。

■ 教育から現地運営まで

本文9.4節の韓国中心の教育と、現地運営との連携をまとめたものです。



本文の要点ビジュアル

10 商品・サービスのラインナップ

PRODUCT LINEUP

区分	品目	内容	課金方式
診断	PetAge360	qPCRテロメアkb比・ 生物学的年齢レポート	1件ごとの検査料
診断	Motherpet	口腔マイクロバイオー ム分析	1件ごとの検査料
診断	Oncoguard	30種の腫瘍遺伝子変異 ・早期リスク予測	1件ごとの検査料
ケア	テロメア延長プロトコル	生命エネルギー波ケア + 6か月ごとの再測定	1回ごとの施術料
ケア	神経回復プロトコル	エネルギー波 + 微小循環の回復	1回ごとの施術料
ソリューション	機能性量子情報エネルギー 水	特許第10-1656791号に 基づく	消耗品の流通

3つの診断検査は、口腔スワブを1回採取するだけで3つすべてを実施できるマルチプレックス工程を用います。検体は1回採取し、判定は3つ行います。

■ 1回の検体採取による診断

本文に記載した3つの診断検査のマルチプレックス構成をまとめたものです。



本文の要点ビジュアル

愛するペットの老化度が一目でわかります!

個別化テロメア検査

PetAge360®

検査の原理



口腔細胞からの
検体採取



高純度
DNA精製



テロメア
長測定



平均テロメア長
老化速度指数
テロメア年齢



結果と相談

検査が必要な理由

- ・ 早期老化の把握
→ 健康寿命の延長
- ・ 生活習慣の改善が可能
→ 個別化ケア
- ・ がん、心血管疾患、
慢性疾患のリスクを予測

検査をおすすめする対象

- ・ 中高齢のペットの犬・猫
(5歳以上を推奨)
- ・ 家族に病歴のあるペット
- ・ 活力の低下・体重の変化
- ・ 皮膚と被毛の質の変化

PetAge360

検査の主なメリット

- ・ 早期老化の発見
- ・ 個別化された健康管理
- ・ 非侵襲的で簡単な検体採取
- ・ 長期的なフォローアップケア

PetAge360

生活習慣管理ガイド

- ・ 定期健診、抗酸化栄養素
- ・ 適正体重・運動
- ・ 環境毒素の最小化
- ・ 遊びとスキンシップでストレスを管理

11 収益モデル

REVENUE MODEL

11.1 3つの主要収益源

収益源	収益の生まれ方	特徴
①	治療システムの供給	機器[チャンバー]はリースします。地域支社が持つ病院数に比例して拡大します
②	診断検査料	検体1件ごとに課金します。分析は韓国の検査室で行うため、本院に直接、継続的な収益が発生します
③	薬鍼金糸および・消耗品の供給	ソリューション・採取キット。施術と検査の件数に比例する継続的な収益

①は病院数が増えるたびに発生し、②と③は継続的に発生します。3つのうち、②診断検査料が最も安定しています。分析を韓国で行うため、収益は仲介者を介さず本院に直接入り、6か月ごとの再検査によって繰り返し売上が発生します。

11.2 単価構造

検査1件・施術1回ごとの単価は、まだ確定していません。以下の基準に基づき、現地の物価と地域支社の条件を反映して、交渉の過程で確定します。

項目	根拠	海外への適用
教育・フランチャイズ	国内のアカデミーの基準	参加費・認証費[未確定]
機器(チャンバー)の調達	無償リースの方式(機器預かり証)	海外に設置する分も、同様の方式を交渉の対象とします

■ 3つの収益創出構造

本文に記載した収益創出の仕組みと反復性を、金額や配分比率の代わりに示しています。

1 治療システム 機器の供給・リース 地域支社が持つ病院数に連動	2 診断検査 検体1件ごとの料金 6か月ごとの再検査	3 消耗品の供給 ソリューション、採取キットなど 施術と検査の件数に連動
---	---	---

検査と施術の単価は、現地の物価と地域支社の条件に応じて交渉します

本文の要点ビジュアル

12 実行計画

EXECUTION PLAN

12.1 フェーズ構成

フェーズ	主な実施内容
フェーズ1 — 海外の足がかり	診断検査室、機器の設置、初期の供給品、教育、マーケティング
フェーズ2 — 拠点ネットワークの拡大	拠点設立の支援、生産のスケールアップ、現地人材、登録試験
フェーズ3 — 国内・ ヒトへの応用	統合動物医療センターの設立、ヒトを対象としたIRBパイロットと研究

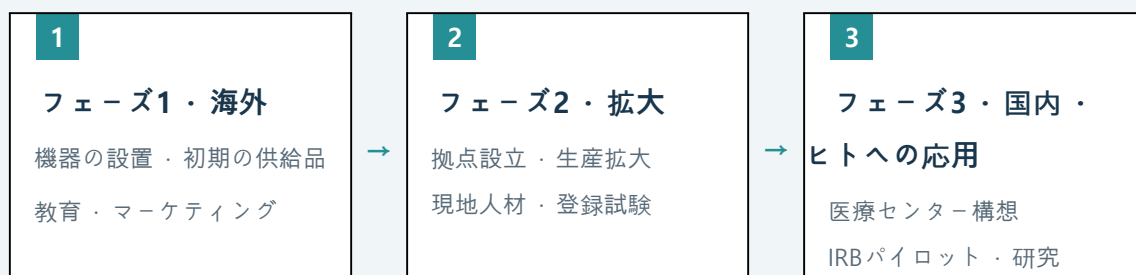
12.2 相手先が決まる前の作業

順序	活動	成果
1	診断検体の採取、韓国での分析、レポート返送を実際に1サイクル実施する	所要時間と負荷のかかる箇所が明らかになる
2	マル動物病院に来院した患畜の施術前後のkb表作成	動物におけるテロメア延長を数値で提示できる

順序	活動	成果
3	日本語・中国語・ 英語で、紹介資料とレポートのテンプレートを制作する	どの市場でも、すぐに説明できる

■ 海外の足がかりから次のフェーズへ

本文の3つのフェーズによる実行構造を、順につなげたものです。



本文の要点ビジュアル

12.3 フェーズ1の詳細な実施内容

番号	項目	内容
1	韓国の検査室の拡充	海外検体を処理するためのqPCR分析能力の拡張。検体の受領・保管体制
2	受注確保のためのマーケティング・営業	K-Link株式会社と協力した現地営業、獣医師ネットワークの拡大、展示会と学会
3	初期の供給品・検体物流	採取キットとソリューションの初期在庫、国際配送体制
4	オンライン紹介資料・翻訳	日本語・中国語・英語で、紹介ページ、商品と診断の説明資料、レポートのテンプレートを制作
5	韓国の教育スペース・技術ノウハウの移転	韓国訪問研修用のスペース・実習機器・教材・通訳

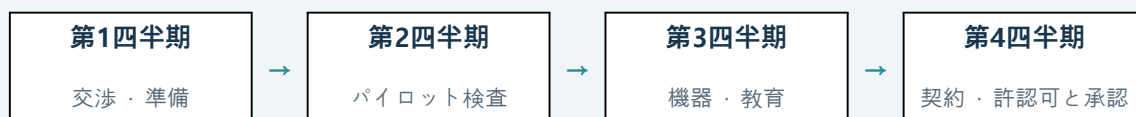
※ 項目ごとの所要金額と資金調達の方法は、交渉の過程で確定します。

12.4 1年目の四半期別構成

四半期	実施項目	目標
第1四半期	事業計画書とオンライン紹介資料を現地に届け、条件を交渉し、検体の輸送体制を設計する	協力条件の合意
第2四半期	診断サービスのパイロット運用を開始し、採取キットを供給し、レポート解釈の教育を1回実施する	パイロット検査の開始
第3四半期	治療システムを現地に設置し、施術プロトコルを移転し、臨床症例の蓄積を開始する	機器(チャンバー)の設置・検査開始
第4四半期	拠点の拡大を協議し、正式契約へ移行し、現地主導の許認可と承認に着手する	拠点の確保

■ 1年目の四半期別実施の流れ

本文12.4節のスケジュールをまとめた計画図です。



本文の要点ビジュアル

13 リスクと対応

RISK MANAGEMENT

区分	リスク要因	対応策
1. 許認可と承認の遅延	動物用医薬品と医療機器の登録に数年かかる可能性がある	承認が不要な診断サービスと、承認が必要な品目を並行して進める
2. 効能表示の規制	「治療」「完治」などの表現を使うと、通関と広告で制裁を受ける	数値データと記録を中心とした表現の原則を適用する。現地での事前の法務審査
3. 相手先の能力	交渉相手先の能力不足または撤退	実績連動型の構造。独占権は実績を条件とする
4. 技術の流出	機器や組成物の複製、現地での模倣品	機器は無償でリース(所有権は保持)。参入国での特許出願
5. 検体の輸送	生体検体の輸出入が、各国の検疫規制により阻止または遅延される可能性がある	市場に参入する前に、輸出入の条件を確認する(12.2の項目1)。輸送が阻止される市場では、診断ではなく機器を先にする順序に変更する

結論

要点は3つです。

技術はすでに確立されています。20年以上にわたり獣医臨床に適用されており、基盤特許3件と臨床記録に裏付けられています。新しいものを開発するのではなく、すでに稼働しているものを国境を越えて展開するという事柄です。

診断が入口です。診断キットは完成品として用意されており、承認手続きの負担が最も小さい品目です。機器の設置を待たずに運営を開始でき、反復測定は6か月ごとに繰り返されます。動物が病気でなくても対象になるため、現地の病院が新規顧客を呼び込む最も容易な入口です。

基準を守る拠点は、引き続き韓国です。機器は海外へ渡りますが、検体分析と技術教育は韓国に残ります。許認可と販売は現地が担当し、判定と治療の基準はマル動物病院が定め、維持します。

■ 海外運営で確認すべき5項目

本文のリスク要因を、運営上のチェックポイントとして整理したものです。

01	02	03	04	05
許認可と承認の遅延	効能の表現	相手先の能力	技術支援	検体の輸送

本文の要点ビジュアル

